

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

※「1 自己評価及び外部評価結果」を評価機関から受領した時点で、「3「サービス評価の実施と活用状況(振り返り)」と併せて作成します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	19	(本人を共に支え合う家族との関係) コロナ禍で対面での時間を大切にしたいが、シールド越しや一定距離を保つため聞こえずらい、会話が通じない時がある。時と場合によっては、職員が会話の架け橋をおこなう必要があるが、家内見守りやご家族との時間を大切にしたい思いから、その場を離れることが多い。	入居者とご家族の会話の時間を大切にしながら、関係性を築くために面会時は、生活の近況報告をおこないながら、必要に応じて会話の架け橋をおこなう。	対面での面会時は、双方(入居者、ご家族)にマスク着用を促し、一定距離はあるが家族との時間を大切にし、時と場合によっては、付き添い会話の架け橋をおこなう。その際、生活の近況報告を行いながら、ご家族の要望等をお聞きする機会としたい。職員は個々の情報を知り得ることで、いつでも状況を報告できるようにする。積極的にご家族と関わり、良い関係性を築く。	3ヶ月
2	6	(身体拘束をしないケアの実践) 苑全体が高齢化しており、転倒リスクやが増えていいる。 見守りの重視や職員の声掛けで防げる事故も多々ある中で、事故報告書を作成し、再発防止策を立てても、同じような事故が発生してしまう。職員の意識づけや入居者の動きの想定ができていない。	必要に応じてセンサーマットの使用を行い、転倒リスクの回避、見守りを重視していく。職員の情報交換や情報の共有を行うことで場面場面でのリスクを考え、再発を防ぐ。	生活の中で入居者の個々の動きを職員一人一りが把握し、職員間で情報の共有、情報の交換をおこない事故を防ぐ。再発防止策については、報告書をもとにユニット会議で話し合い、検討する。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。なお、挿入した際は、印字状態を必ず確認して下さい。